



平成 22 年 2 月 1 日

各 位

会社名 日立電線株式会社
 代表者名 執行役社長 今井 光雄
 (コード番号 5812 東証・大証 1 部)
 問合せ先 人事総務本部総務部長
 木暮 正一
 (TEL. 03-6381-1050)
 当社の親会社 株式会社 日立製作所
 代表者名 執行役社長 川村 隆
 (コード番号 6501 東証 1 部ほか)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 22 年 3 月期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の通期業績予想について、平成 21 年 10 月 28 日の「平成 22 年 3 月期第 2 四半期決算短信」発表時に公表しました予想値を、下記のとおり修正いたします。

記

1. 通期業績予想の修正（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 21 年 10 月 28 日発表)	380,000	1,000	1,000	△3,000	△8.25
今回修正予想 (B)	375,000	△4,500	△3,000	△8,000	△22.00
増減額 (B) - (A)	△5,000	△5,500	△4,000	△5,000	—
増 減 率 (%)	△1.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 平成 21 年 3 月期	493,151	△14,740	△19,974	△53,775	△147.92

*金額の単位は、「売上高」「営業利益」「経常利益」「当期純利益」は百万円、「1 株当たり当期純利益」は円で表示しております。

2. 修正の理由

当社グループの平成 22 年 3 月期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の業績は、第 2 四半期連結累計期間（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）までは、概ね当初想定どおり推移しました。しかしながら、第 3 四半期連結会計期間（平成 21 年 10 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日）に入ってから当初想定していたほどには業績が回復せず、第 4 四半期連結会計期間（平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）においても、大幅な事業環境の改善は見込めない状況になってまいりました。

具体的には、例年は期末に向かって伸張が期待できる産業用・電力用ケーブルを中心とした電線・ケーブル事業は、国内の設備投資抑制の影響により伸び悩みが予想されます。また、光海底ケーブルや通信事業者向けネットワーク機器では、当初は当連結会計年度に出荷を想定していた案件の一部が、次連結会計年度にずれ込む見通しとなりました。さらに、化合物半導体や T A B といった半導体市場向け製品でも、年度後半に入ってから回復が鈍化する可能性が高くなってきました。

一方、電線・ケーブルや伸銅品の主要な材料である銅の価格が想定よりも高値で推移し、売上高が押し上げられております。しかし、上記のような需要の伸び悩みの影響が大きく、売上高は前回予想よりも下回る見込みとなりました。

利益面でも、固定費を中心としたコスト削減は当初想定どおり進捗しているものの、売上高が当初予想に達しない見込みとなった影響が大きく、営業利益、経常利益は前回予想を下回る見込みです。

さらに、このような状況に対応するため、事業構造改善施策を拡充することにより、特別損失の計上額を積み増す見通しであることから、当期純利益、1株当たり当期純利益の予想も修正しております。

しかしながら、前連結会計年度との比較では大幅な増益となる見通しであり、当社グループとしては、これまでのコスト削減策に加え、不採算事業の構造改革を加速させ、来期以降のさらなる収益力向上に邁進していきます。

(注) 上記予想値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により異なる結果となることがあります。

個々の事業構造改善施策の内容及びそれに伴い発生する特別損失については、現在、検討・精査しているところであり、決定次第、お知らせいたします。

以 上